

セラミックス岡山

CERAMICS OKAYAMA

OKAYAMACERAMICS CENTER

(岡山セラミックスセンター)

財団の活動方針等



一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団

理事長 矢吹 巧

当財団の運営に当たり、平素から格別のご理解とご協力を賜っておりますことを、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

この「セラミックス岡山」ですが、昨年度から年1～2回の発行とし、当財団の基本的な活動方針等をお知らせすることとしています。

さて、耐火物の使用実績の8割を占める鉄鋼産業ですが、新型コロナウイルスの影響で急減していた顧客需要は一時的に回復したものの、本年度の国内粗鋼生産の状況を見ると、昨年度に比して鋼材需要が低迷しているようです。将来にわたる鉄の需要は、人口減少などによる国内需要減の影響や厳しい国際競争の中、高炉の廃止など国内生産設備の縮小を余儀なくされるなど厳しい状況となっています。

また、2050年までの脱炭素社会の実現を目指し、鉄スクラップを利用した電炉の大型化による高級鋼の量産への取組みや、「水素還元製鉄」といった超革新的な技術開発への着手等多様な取り組みを進めておられます。

このような中であって、耐火物関係業界に対して常に厳しい要求がなされており、当財団では、多様化する産業界のニーズに対応するため、時代に即した業務内容の充実に努め、耐火物産業の発展と地域経済の活性化に貢献すべく各種事業の展開を図ってまいりたいと考えております。

研究開発では、これまで進めてきた高機能耐火材料について、 Al_2SiC_5 の製造コストのさらなる低減を模索するとともに、 Al_3BC_3 などの新規合成化合物の合成法や用途の探索を行っております。

また、昨年度開発した超高速加熱技術を活用して、接触角評価技術のほか熱伝導率測定など複数項目が測定可能となる高温マルチ評価技術の確立などに努めております。

測定分析では、昨年10月からICP分析装置や原子吸光分析装置を使い、従来分析が出来なかった軽元素や微量成分の分析を始めました。本年10月6日には、ICP分析装置や蛍光X線分析装置を用いて、定量法と半定量法の比較検討事例などを紹介するセミナーを実施し、多くの方の参加を頂きました。

原料分析の重要性を再認識し、耐火物業界の体力強化に繋がるよう分析センターとしての機能強化に努めてまいります。

人材育成では、昨年残念ながらWeb開催となった『耐火物の基礎学問研修』を今年5月に対面式で開催し、多くの皆さんの参加を頂きました。また、8月には、セメントの遅延剤、硬化剤に関するセミナーを新たに実施するなど、耐火物業界の若手・中堅社員の能力向上に繋がるよう努めているところです。

昨年度から、当財団の業務内容のほか耐火物について広く知ってもらうため、情報発信の強化を進めています。昨年10月からメールマガジンを月に1～2回発行するとともに、今年7月にはSNSによる動画配信を新たに開始しました。

また、9月末には当センター内にある展示コーナーのリニューアルを行ったところです。ご来所の節は是非ご覧頂ければ幸いです。

皆様方には、引き続き、当センターを積極的にご利用頂くとともに、ご支援賜りますようお願い申し上げます。